

137 太宰治を読む 小説『ヴィヨンの妻』の世界 — その妻の矜持とは —

中世フランスの詩人、フランソワ・ヴィヨンの名が付けられた『ヴィヨンの妻』は太宰の死の一年前に発表されました。作中では、家に寄り付かず「人非人」と非難される無頼の詩人・大谷とその夫をけな気に支え続ける妻の姿が描かれています。この講座では、二人の独特の世界観について見ていきたいと思えます。是非、一読の上お越し下さい。



【日時】 11/7 (土) 10:30~12:00

【講師】 福森 裕一 [博士(文学)]

受講料 一般：1,900円 本学学生・卒業生：1,600円 定員：20名

申込締切：10/19(月)  